

10 調査方法

1. 設計方法


調査は、インターネットウェブサイトを使って行った。調査サイトは教育開発センター内に設置したサーバーを使用した。サーバーに、オープンソースの CMS (Contents Management System) である Plone をインストールし、さらに、調査用アドオンプロダクト、Plone Survey 1.3.0 を追加カスタマイズし利用した。調査サイトは、学部生用、院生用の 2 サイトを構築した。まず、調査対象者一人一人にログインのためのアカウント (ユーザー名、パスワード) を発行した。ユーザー名、パスワード共に、匿名性を確保するため、個人名と回答内容がひも付かないよう設計を行った。ユーザー名は、英小文字 ocha に 6 桁数値を組み合わせたもの、パスワードは、英小文字と数値の組合せでランダムに発行した。「User InOut」というアドオンプロダクトを使用し、テスト用アカウントも含め、学部生用 2131 件、大学院生 1019 件のアカウントインポートを行った。対象者は、個別に配布されたユーザー名、パスワードを使用してログインをしなければ、調査サイトにアクセスし回答することができない。

対象者には、調査サイトにアクセスするためのユーザー名、パスワードを Email で通知した。ユーザー名とパスワードの通知をメールで行う際、Microsoft Word に搭載されている、「差し込みメール」機能を使用した。「差し込みメール」を送信する際に、送信形式を HTML に設定すれば、複数対象者に対して 1 度に「差し込みメール」を送ることができる。ただし、何度かのテスト送信の結果、回線トラフィックの制限で、一度時に送信できるのは、100 件程度であることが判明したため、学部生、大学院生を併せて 30 回に分けてメールの送信を行った。

図表 10-1 調査トップページ

こちらは「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査 (学部生用)」のページです！


作者: 管理者 | 最終変更 2010年12月01日 14時58分



お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査 (学部生用) について


このたび、全学で「お茶大生の学習環境と生活・意識に関する調査」を行うこととなりました。これは、本学の自己評価・自己点検活動の一環であり、お茶の水女子大学の在学生在が、本学の教育、入試、学生支援、情報環境、国際交流等について、どのような評価、意見、ニーズを持っているかを調べ、本学の教育、研究、福利厚生等の改善を図ろうとするものです。同様の調査は、平成19年度にも実施いたしましたが、今回の調査は、国立大学法人としての業績評価や中期計画の評価にも反映されるもので、重要な資料になります。何卒ご協力をお願いいたします。

みなさまの声を、どうぞお聞かせください。



アンケートの対象者

- お茶の水女子大学に所属している学生全員
- 調査は無記名でおこなわれ、皆さんの回答は統計的に処理されますので、個人としての回答が公表されることはありません。ありのままのことをご回答ください。



締切

2010年12月6日 (月曜日) 23時59分までにお答えください。

- 最終ページを終えて提出するまでは、何度でも回答を中断したり、修正したりすることができます。
- 再度ログインすると、続きから回答できます。

アンケートのページへ →→→ [start](#)

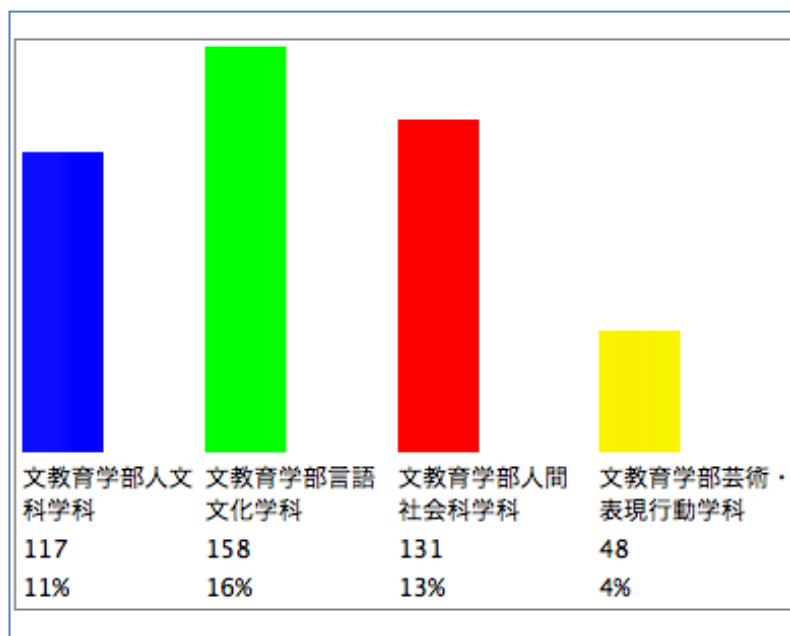
調査 URL にアクセスし、ユーザー名、パスワードを入力後ログインすると、調査トップページが表示される（図表 10-1）。トップページには、調査概要、締切日時、回答方法のお願いといった調査協力にあたっての基礎情報が掲載されている。さらに、回答前に調査の全体像を把握してもらい、ウェブ調査のデータ保存形式を理解してもらうことで、対象者が安心して調査協力できるよう、インストラクションの文面には工夫をした。

2. ウェブ調査の特徴

回答ページは、テーマごとに数ページに分けられており、次のページに進む都度、回答データはデータベースに蓄積されるようになっている。回答には必須項目の設定もできる。必須質問を抜かして次のページに進もうとするとエラーが表示される。

対象者は、1 度回答した自分の回答内容を確認することはできるが、提出後に回答内容を変更したり、取り消したりすることはできない。ウェブ調査での回答内容は、Plone サイト管理者であれば、随時確認することができる。結果のダウンロードは、グラフ形式の表示「View survey result in a barchart」（図表 10-2）、CSV 形式のデータダウンロード、html 形式のデータダウンロードの 3 つのタイプがある。「View survey result in a barchart」は有回答で母数が絞られているが、単純集計の途中経過確認には有用である。例えば、途中経過を学部学科別で確認できるため、回収率が思わしくない場合、学部学科レベルで教員を通じて調査協力を促すこともできる。CSV や html 形式の調査結果データは、数値データにはなっておらず、選択肢として設定した日本語がそのままダウンロードされるため、SPSS 等で集計する場合には、数値に置換する等、ローデータの加工が必要となる。

図表 10-2 View survey result in a barchart の画面例



3. ウェブ調査の成果と課題

今回の調査の成果は、学内、学外に限らず接続可能なサーバーを用いて、外注委託をせずに調査を実施させたことにある。学部、院生とも全質問が約 50 問という比較的ボリュームが多い調査で、一定の回収率を達成するためには、相当なコストがかかる。さらに、依頼状発送用メールアドレスを業

者に譲渡する必要もない。低コスト、短期間の調査実施などがウェブ調査の利点と言える。

ただ、ウェブ調査の課題も何点かある。質問紙調査の場合は、授業中に配りその場で回答してもらうことも可能だが、ウェブ調査の場合は、調査実施を認知していても、実際に「回答を行う」機会は、低い可能性がある。しかし、質問紙調査を授業中に配り協力要請する場合も、学部学科の偏りがでやすい難点がある（今回のウェブ調査は、学部学科間の回収率はそれほど大きくならなかった）。

最終的な回収率は前回調査（質問紙調査）とそれほど差が出なかったが、督促は合計 3 度行い、その都度対象者全員にメールを配信した。なるべく 1 回の通知で、コンピュータの前に座り調査を完了してもらう工夫が今後は必要となるであろう。さらに、大学院生の場合、大学アカウントのメールを見ておらず、調査の実施自体を知らない院生が多かったように思われる。今後、大学院生に調査を認知してもらい、協力を促すにあたっては、入学時に大学アカウントのメールはプライベートメールへ転送するインストラクションが必要であろう。

以下、調査形式の違いによる回答の傾向を簡単に分析してみた。調査への協力度を測るため、2007 年度、2010 年度調査の学部生用アンケートを用い、シングルアンサー形式質問の無回答率を比較した。結果、質問紙で行った 2007 年は平均で 3.9%の無回答率であり、ウェブ調査で行った 2010 年度は、平均で 5.5%の無回答率であった。さらに、全般的なことを尋ねる自由回答質問の文字数を比較し、手で記述する形式とウェブで入力する形式の違いを比較した（図表 10-3）。平均文字数では、ウェブ調査の方が多くなっているが、度数を比較するとそれほど顕著な違いはみうけられなかった。

図表 10-3 自由回答の文字数比較

	2007 年調査(質問紙)	2010 年調査(ウェブ調査)
平均文字数	28.5 文字	45.1 文字
無回答数	734 件	725 件
400 字未満の件数	137 件	148 件
400-800 字未満の件数	6 件	21 件
800 字以上件数	2 件	5 件

(※2007 年度は Q72、2010 年度は Q52: 両年とも学部生調査のみ比較)